



～楽しい冬休みに～

新型コロナウイルス感染症の影響による「分散登校」で始まった2学期、その頃はまだ暑い夏の最中でした。そして、季節は秋・冬と巡り、寒さとともに2学期の終了を迎えようとしています。まさに「光陰矢の如し」、時の流れや季節の移り変わりの速さを感じてなりません。

今学期は、当初の予定より5日間短い76日間となりました。分散登校というイレギュラーな形を経験し、さらに、10月には新型コロナウイルスの猛威に再びさらされ、一時はどうなることかと心配されました。今こうやって、無事に2学期の終了を迎えられることが**何よりの喜び**であり、子どもたちが元気に登校し、毎日の活動に精一杯取り組めたことが**何よりの収穫**です。運動会や校外学習、日々の授業や活動と、**子どもたちの財産**となったことは、授業日数と同じ数だけあったといってよいでしょう。どの子ども、1学期よりまた一回り大きく成長し

たと感じています。

さあ、冬休みが始まります。きっと、子どもたちは、ウキウキワクワクしていることでしょう。短い冬休みではありますが、お正月や年末年始といった「冬の風物詩」を大いに楽しんでもらいたと思います。もちろん、コロナ対策も忘れずに励行していきましょう！

そして、1月11日の3学期始業式に、元気な(^_^)(^_^)で会いましょう。



今日22日は、二十四節気の1つ「**冬至**（とうじ）」です。冬至は、「冬の頂点」といわれ、1年で最も昼の短い日になります。実際に甲府では、その日の日照時間は9時間半程になり、夏至（6/21）に比べ5時間程短くなります。昔から太陽の出ている時間が一番短いことから、太陽の力が一番弱まる日とされ、その翌日から再び太陽の力が強まる（日照時間が長くなる）ことから、「太陽が生まれ変わる日」とも捉えられています。そして、この頃には、ゆず湯に入ったり、カボチャを食べたりといった昔からの習わしもあり、夏からの疲れた体と冬の寒さに向かう体へのいたわりの意味があります。さしずめ、1年間頑張ってきた心と体へのご褒美といったところでしょうか。



～大谷翔平選手 から学ぶ～

今年も新型コロナウイルスの影響は大きく、家庭や学校では制約の多い生活となりました。ややもすると塞ぎがちになってしまう毎日でしたが、そんな中でも世の中を明るくするニュースがいくつかありました。

真っ先に思い浮かぶニュースといえば、「大谷翔平選手」の活躍ではないでしょうか。野球を知らない人でも、彼の活躍に心躍らせた人も多かったはず。その活躍は、アメリカや日本はもとより、世界中の人々に勇気と感動を与えてくれました。投手と野手の分業が当たり前前のプロの世界で、「二刀流は無理だ、できない」と言われ続けたにも関わらず、自分の信念を貫き通した先の**偉業**です。そこには、徹底した目標管理と周到な準備、そして、真摯に野球に取り組む姿勢があったからこそ成せる技であったと痛感します。そして、野球以外での彼の立ち居振る舞いも話題となりました。「**落ちているゴミを拾う＝誰かが落とした運を拾う**」という発想の転換には、驚きを隠せませんでした。



前例にとらわれない「見方・考え方」「行動力」に加え、「運」までも味方に付ける大谷選手だからこそ、大きな成果を引き寄せられたのかもしれませんが。

また、大谷選手は、次のようなことも言っています。



「人生が夢を作るんじゃない。

夢が人生をつくるんだ。」

夢を現実のものに変えてきた大谷選手だからこそ、この言葉には重みがあり、世界中の人々に感動を与えたのだと思います。大谷選手の活躍、考え方、行動から、たくさんのお話を教えられた気がします。

～今年の漢字～ 「金」

先日、今年の世相を表す漢字一字が「金」であると発表されました。東京オリンピックの「金メダル」ラッシュ、大谷翔平選手や将棋の藤井聡太棋士の「金字塔」などが理由に挙げられています。因みに、2位は「輪」、3位は「楽」だそうです。

年末恒例のこの行事は、京都・清水寺の舞台で**貫主**（僧侶の代表者）が、大きな紙に、太い筆で揮毫することでも知られています。一見、清水寺が主催となって行っている行事かと思いきや、実は、日本漢字能力検定協会（漢検）が主催している企画であることはあまり知られていません。

さて、本題に戻り、暗いニュースが多い中、東京オリンピック日本選手団や大谷選手などの活躍は、私たちに勇気と感動、希望を与えてくれる、深く心に刻まれた出来事でした。相変わらず新型コロナウイルス感染症に関わるニュースは絶えることがありませんが、改めて1年を振り返ってみると、悪いことばかりではなかったように思います。もちろん、たくさんの制約があったことは確かですが、家庭や学校において、実現できたこと、可能になったこともたくさんあったはず。この1年をゆっくり振り返るとともに、来る令和4年が、明るいニュースで満ちあふれることを願いつつ、今年の締めくくりといたします。それでは、よい年をお迎えください。

